

平成30年度第1回習志野市市民協働推進委員会 会議の概要

1	会議名	平成30年度第1回習志野市市民協働推進委員会
2	開催日時	平成30年5月29日(火) 午前10時10分から11時30分
3	開催場所	市庁舎5階 会議室5-3
4	出席者	<p><b>【委員】</b>                  牧野委員長、栢副委員長、赤澤委員、松井委員、林委員、相澤委員、奥井委員、野手委員、三橋委員</p> <p><b>【市側】</b>                  竹田協働経済部長、片岡協働経済部次長</p> <p><b>【事務局(協働政策課)】</b>                  佐久間課長、上野市民協働推進係長、佐々木副主査、鹿野主事補                  傍聴者:0名</p>
5	議題及び 会議の概要	<p><b>【議事】</b>                  第1. 会議録の作成等                  第2. 会議録署名委員の指名                  第3. 議題                  (1)平成30年度市民活動団体支援等の施策概要について                  (2)習志野市市民協働基本方針の見直しについて                  (3)平成30年度習志野市市民参加型補助金の審査について                  第4. その他(事務連絡等)</p> <p><b>【会議の概要】</b>                  1. 会議録の作成等                  2. 会議録署名委員の指名について                  名簿順により、野手委員と三橋委員を指名。                  3. 議題                  (1)平成30年度市民活動団体支援等の施策概要について</p> <p>事務局                  資料1-1、1-2により説明。                  平成30年度市民活動団体支援等の施策概要及び、会議開催予定について説明。</p> <p>.....質 疑.....</p> <p>栢副委員長                  4月14日(土曜)に市民参加型補助金平成29年度実績報告会が                  開催された。採択団体は実績報告会に向けて一生懸命資料を作成</p>

	<p>している。採択事業に関連する所管課の職員の参加がなかったように思われるが、審査委員会委員も含め、実績報告会に参加するべきではないか。実績報告会がどのような場なのか、再確認するとよいのではないかと。</p> <p>また、かだい提案型のテーマは、1テーマではなく、いくつか提案があれば良いのではないかと。</p> <p><b>事務局</b> 採択事業に関連する所管課の職員は今年度についても出席をしている。審査委員会委員の出席については任意でお願いをしているところである。今後、委員の参加については、当委員会でも検討していければと考えている。</p> <p>また、かだい提案型のテーマ数は、予算との兼ね合いを考慮し、検討をしていきたいと考えている。</p> <p><b>牧野委員長</b> 補助金の審査を担当した人が、実績報告会に出席をすることは、本来の姿勢ではないかと思う。他市町村は、実績報告会まで、審査を担当した人がコメントをし、次の事業に繋げるということをしている。市民協働型委託事業も改めて始まるので、実績報告会に参加をし、次に繋げてもらえればと思う。また、年度当初から事業が実施できるよう募集をしてほしいと思う。</p> <p>かだい提案型については、他市町村でも、制度があっても、案件がないという事象があった。今年度の課題の提案について、少し状況を伺えればと思う。</p> <p><b>相澤委員</b> 今年度は子育て支援課が挙げた課題が、市民協働型委託事業と市民参加型補助金のかだい提案型の募集テーマに選ばれた。担当課だけでプレーパークを実施するには厳しいと感じており、補助金等を活用できればと考えている。</p> <p>.....質疑終決.....</p> <p>(1)平成30年度市民活動団体支援等の施策概要について事務局からの説明を了承。</p> <p>(2)習志野市市民協働基本方針の見直しについて</p> <p><b>事務局</b> 資料2により説明。 習志野市市民協働基本方針の見直しの背景、改正までのスケジュール、主な見直し点について説明。</p>
--	--

	<p>.....質 疑.....</p> <p>質疑なし</p> <p>.....質疑終決.....</p> <p>(2)習志野市市民協働基本方針の見直しについて事務局からの説明を了承。</p> <p>(3)平成30年度習志野市市民参加型補助金の審査について</p> <p>習志野市市民参加型補助金審査委員会設置要領第3条第1項に基づき、習志野市市民協働推進委員会の委員長が、市民協働推進委員会委員のうち、市職員を除く8名の委員を市民参加型補助金審査委員会委員に推薦し了承。</p> <p>事務局 資料3-1、3-2、3-3、3-4により説明。 習志野市市民参加型補助金制度平成30年度募集要項、公開プレゼンテーションスケジュール(案)、採点方法、採点票について説明。</p> <p>.....質 疑.....</p> <p>牧野委員長 補助金の見直しを行った結果、昨年度は2事業だったのに対し、今年度が8事業となり、ほっとしているのではないかと思う。 公開プレゼンテーションは6月17日ということだが、提出書類の審査のための資料配付は、どのぐらい前に配付してもらえるのか。</p> <p>事務局 一週間前までに審査資料を配付する。配付資料に、事前審査のための採点票も同封するので活用していただければと思う。</p> <p>牧野委員長 今回の審査は1日がかかりとなる。書類審査については時間をかけて行いたいので、できるだけ早めに資料配付をお願いしたい。</p> <p>栢副委員長 審査の採点について、とても悩むところがある。参考として、牧野委員長の採点の基準をお聞かせいただきたい。</p> <p>牧野委員長</p>
--	--

		<p>採点に関しては、辛い人と甘い人がいると思う。審査員は、それぞれの立場で採点に臨むと思う。採点の公平性という点で、各事業の得点は、各審査員の点数から最高点と最低点を除いた平均点となっている。審査員は、応募があった事業をぜひ実施してもらいたいと思えば、基準点より高く点数をつければよいと思う。</p> <p>何より大切なのは、時間のある限り、団体から提出された書類をきちんと読んで、プレゼンテーションに臨むことだと思う。例え事業が不採択になったとしても、団体にとっては、補助金の応募をしたこと自体が成長に繋がっていると思う。プレゼンテーションの際の質疑では、書類に書ききれていない部分について聞いて、その上でアドバイスができるような質問であり、採点であるべきだと考えている。</p> <p>赤澤委員</p> <p>昨年の補助金の応募事業が2件だったものが、今年は8件となった。どのようなことが今回の件数アップにつながったと考えているか。</p> <p>事務局</p> <p>補助率が、スタートアップ型80%、ステップアップ型50%だったものが、90%となり、団体の持ち出しが少なくなったということと、制度を一新したことで、インパクトがあったものと考えている。</p> <p>また、補助金に関する問合せが多くあり、制度が変わったことで、自分たちが何かできるのではないかと考えた団体が多かったと思う。</p> <p>牧野委員長</p> <p>制度が変わったことで、団体にインパクトを与えたということは非常に大きいことで良かったと思う。</p> <p>.....質疑終決.....</p> <p>(3)平成30年度習志野市市民参加型補助金の審査について事務局からの説明を了承。</p> <p>.....閉 会.....</p>
6	問合せ先	<p>所管課名:協働政策課 電話番号:047(407)3185</p>

平成30年度第2回習志野市市民協働推進委員会 会議の概要

1	会議名	平成30年度第2回習志野市市民協働推進委員会
2	開催日時	平成30年10月30日(火) 午前10時から11時10分
3	開催場所	市庁舎5階 会議室5-3
4	出席者	<p>【委員】          牧野委員長、栢副委員長、赤澤委員、松井委員、林委員、奥井委員、野手委員、三橋委員</p> <p>【市側】          竹田協働経済部長、片岡協働経済部次長</p> <p>【事務局(協働政策課)】          佐久間課長、柴野市民協働推進係長、佐々木副主査、鹿野主事補          傍聴者:0名</p>
5	議題及び 会議の概要	<p>【議事】          第1. 会議録の作成等          第2. 会議録署名委員の指名          第3. 議題              (1)習志野市市民協働基本方針の見直しについて              (2)平成31年度市民参加型補助金について          第4. その他(業務連絡等)</p> <p>【会議の概要】          1. 会議録の作成等          2. 会議録署名委員の指名について              名簿順により、赤澤委員と松井委員を指名。          3. 議題              (1)習志野市市民協働基本方針の見直しについて</p> <p>事務局          資料1により説明。          市民協働基本方針の見直しと後期基本計画策定スケジュールについて説明。</p> <p>……………質 疑……………</p> <p>牧野委員長          市民協働基本方針の見直しは、後期基本計画との整合性を図るべきことから、策定の進捗状況に合わせ、作業を進めるということだが、後期基本計画の策定に関わるメンバーは市職員のみで構成されているのか。</p>

	<p><b>事務局</b>          庁内の習志野市後期基本計画策定委員会、習志野市後期基本計画策定作業部会で議論し、習志野市長期計画審議会に諮りながら、来年度にかけて策定をしていくこととなっている。習志野市長期計画審議会への答申・諮問、パブリックコメントも予定されている。          最終的には、来年度中に策定し、再来年度から計画期間が始まる予定である。</p> <p><b>牧野委員長</b>          平成30年度第3回の市民協働推進委員会で見直し(案)を提示し、パブリックコメントを経て、平成31年度第2回の市民協働推進委員会最終案を提示するというスケジュールでよろしいか。</p> <p><b>事務局</b>          その通りである。</p> <p>.....質疑終結.....</p> <p>(1)習志野市市民協働基本方針の見直しについてについて事務局からの説明を了承。</p> <p>(2)平成31年度市民参加型補助金について</p> <p><b>事務局</b>          資料2-1、2-2、参考資料1により説明。          平成30年度市民参加型補助金採択事業実施予定について報告。          平成31年度市民参加型補助金実施予定、市民参加型補助金の二次審査における検討事項について説明。</p> <p>.....質 疑.....</p> <p><b>栢副委員長</b>          ならしの子ども劇場関係者として、補足説明をさせていただきたい。参考資料1の「かだい提案型」の事業については、子育て孫育て講座の実施とさせていただいている。子育て世代と孫育て世代に共通認識を持っていただき、地域で子育てをすることを考えている。講座内容に祖父母向け講演会とあるが、父母・祖父母向けに訂正させていただきたい。</p> <p><b>牧野委員長</b>          参考資料1の市民参加型補助金 わかもの活力型「ツナグバプロジェクト学生グループ」、ちいき活力型「ツナグバ」の事業実施予定は11月としか記載されていないが、実施日は未定ということか。</p>
--	--

		<p><b>事務局</b> 未定ということで連絡をいただいている。</p> <p><b>牧野委員長</b> 事業実施予定が11月に集中している。委員の皆様も機会があれば、御自分の目で事業内容を確認いただければと思う。 市民参加型補助金は、これまで春に公開プレゼンテーション、審査、採択というスケジュールであることから、ほとんどの事業実施は下半期となってしまう、団体の活動できる期間は半年しかない。今回の提案は、次年度の申請時期を早め、4月からの活動が可能となり、実施期間を長く持てるものである。 二次審査については、採点確定後に意見交換会を行っていたが、提案は一旦、仮採点を行い、意見交換会ののち、採点を確定するものである。この意見交換は、委員それぞれの立場・視点からの意見をすり合わせる事ができ、委員にとっても大事であり、補助金制度を育てることに繋がるのではないかと思う。</p> <p><b>野手委員</b> 委員皆さんと色々なディスカッションして、自分の採点の見直しができるものと思うが、仮採点の点数は、意見交換会の中で公開されるのか。</p> <p><b>事務局</b> 仮採点の公表・非公表については、只今、提案している現行か変更案かを御審議いただき、変更案で可決された後、仮採点を公表するか否か提案したいと考えている。</p> <p><b>三橋委員</b> 補助金申請等のスケジュールを早めることは4月から立ち上げを考えている新規団体や学年が変わる学生にとっては厳しいのではないか。</p> <p><b>事務局</b> スケジュールを早めるのは事業実施期間を長く持たせ、1年を有効に使っていただきたいと考えているものである。新規団体や学生団体からの相談については、柔軟に対応を考えたい。</p> <p><b>牧野委員長</b> 民間企業等の補助金・助成金のスケジュールは、10月、11月に申請受付を締め切り、翌年4月から活動を開始し、補助金・助成金を有効に活用するためにも、1年をかけて事業実施することが主流となっている。 スケジュールを変更する際は、周知を徹底しなければならない。団体にとっては、資金調達のための最盛期にあたる。</p>
--	--	---

	<p><b>栢委員</b>          庁内に「かだい提案型」の課題を照会しているとのことだが、平成30年度は1件と寂しい結果であった。平成31年度の「かだい提案型」テーマの提出状況を教えていただきたい。</p> <p><b>事務局</b>          各課において検討中であると思われる。現在、問い合わせや相談があったのは1件となっている。</p> <p><b>牧野委員長</b>          課題があがってくるということが継続の基となる。再度、テーマの提出について、働きかけをお願いしたい。</p> <p>.....質疑終結.....</p> <p>市民参加型補助金の二次審査における検討事項について、委員の挙手(現行0名、変更案8名)により、変更案に決定。</p> <p>資料2-2市民参加型補助金の二次審査における検討事項(追加提案)</p> <p><b>事務局</b>          2-2参考について説明。</p> <p>.....質 疑.....</p> <p><b>赤澤委員</b>          仮採点の公表部分について伺いたい。各委員の採点または各団体の合計点数のどちらなのか。</p> <p><b>事務局</b>          仮採点の公表部分については、委員の皆様の御意見を伺いたい。</p> <p><b>牧野委員長</b>          変更案①はA委員、B委員のように氏名を伏せたうえで、仮採点の結果を公表することから、ボーダーラインにある団体がわかった中で、意見交換ができる。変更案②は、ボーダーラインにあるのかわからない中で、採点ポイントについて意見を交換するということになる。</p> <p><b>事務局</b>          変更案②は、採点結果を公表せず意見交換会を行うことから「そういう見方もあるのか」等、他の審査委員の採点ポイントを参考にしながら、自分のチェックしたところを再度見直すことになる。</p>
--	--



	<p><b>牧野委員長</b> 私どもの団体も、本当に微妙な採点結果で、何度も不採択を経験している。</p> <p><b>事務局</b> 団体の合計点のみを公表するものと、A委員、B委員というように、各委員の採点を公表するものの2パターンが考えられる。これらの部分についても、御協議いただきたい。</p> <p><b>松井委員</b> 基本的に応募いただいた団体は全て採択となってもらいたい。その点は重視したい。各委員の採点を公表するより、各団体の合計点を公表したほうがよいのではないか。</p> <p><b>赤澤委員</b> 各委員の氏名を公表せずとも、A委員、B委員、C委員とするのであれば、氏名公表と同じような話になるのではないかと考える。団体の合計点がわかり、ボーダーライン上の団体について協議することができれば、各委員の採点結果は必要ないと思う。</p> <p><b>林委員</b> 変更案②に賛成。ボーダーラインの団体を救いあげるという改正案は納得できない。</p> <p><b>三橋委員</b> 変更案①とするのであれば、5つの審査項目ごとの採点を公表することにより、審査項目ごとに各団体の欠けている部分が明確になるので、審査委員として今後につながるコメントが残せると思う。</p> <p><b>奥井委員</b> 変更案②は仮採点后、仮採点の結果を公表せず、意見交換をし、各委員の意見を参考に、必要に応じて自分の採点を見直し、最終的に採点結果を確定するという方法。 変更案①は仮採点后、各委員の採点結果を公表するかは別として、意見交換会を踏まえて各委員の採点を見直すのか。それとも、公表したうえで議論ののち、最終的に審査委員会としての点数を確定させるイメージのどちらなのか。 審査委員会として、一つの採点結果を導き出すのであれば、変更案①しかないと思う。意見交換を踏まえて、各委員が必要に応じて採点結果を見直し、採点を確定させるということであれば、変更案②でもよいのではないかとと思う。</p> <p><b>事務局</b> 市民参加型補助金審査委員会として、採点を見直し、結果を導き出すのではなく、意見交換を踏まえて、各委員が自分の採点を必要</p>
--	--

	<p>に応じて見直し、加点・減点し、採点を確定する。</p> <p><b>奥井委員</b>  仮採点後に事業の適正について、意見を交換し、自分の採点を必要に応じて見直し、採点を確定させるということで、ボーダーラインの団体を救うことではないことを理解した。</p> <p><b>野手委員</b>  変更案①、変更案②どちらになっても、意見交換会で各委員の意見を聞くことにより、見えなかったものが見え、採点に反映されるようになるということだと思う。</p> <p><b>栢副委員長</b>  これまで、審査をさせていただく中で、自分の判断が合っているのか、各委員はどういう考えなのか、伺いたいと思っていた。公開プレゼンテーション、仮採点、意見交換後に採点結果を確定させるという流れになることは有意義だと考える。採点に自信を持つことができるし、採点に対する自分の考えも示すことができる。  市内で大きな事業を実施することが可能な団体が少なくなっている。そのような中で、平成30年度の市民参加型補助金の審査についても、どこまで審査のポイントとして、公益性について求めるのか悩んだ。採点に自信を持つためにも、各委員がどのように考えるのかを諮る機会があることが有意義だと思う。仮採点の公表、非公表は重要ではないと考える。</p> <p><b>牧野委員長</b>  習志野市は、補助金の上限が決まっているので、相対評価にならざるを得ない。補助金を基金として持っている自治体は、相対評価ではなく絶対評価になる。良い事業が多くある場合、全て採択される。その逆に不採択が多いこともある。得点の高い順に採択される方法では、よい事業も不採択となることがある。ボーダーラインの団体をどうするのかというより、良い事業を採択する。相対評価か、絶対評価かということも含めて検討していただきたい。</p> <p><b>赤澤委員</b>  意見交換の中で、採択について話し合うと勘違いしていた。意見交換をする上で、採点結果を参考資料として見るのか、見ないのかということが理解できた。採点結果を公表しない場合の意見交換会はどのようなものになるのか。</p> <p><b>牧野委員長</b>  これまでも意見交換会はあったが、公開プレゼンテーション、採点確定後に開催され「この団体はこうだった」「あの部分がちょっと惜しい」という感想を述べるにとどまった。変更案②で採点結果を公表しない場合は、採点する上で、確認したいことや疑問に思うことを質問</p>
--	---

	<p>しながら行うこととなるのではないか。</p> <p><b>赤澤委員</b> 意見交換会で各委員の意見を聞き、採点を見直したいと考える委員がいらっしゃることを理解した。</p> <p><b>奥井委員</b> 市職員は補助金審査に関わっておらず、仮採点の結果を集計したら各委員の採点結果まで必要なのかがわからないのだが、団体の審査項目ごとの集計結果を資料として持ったうえで「なぜこの項目の点数が高いのか、低いのか」そのような議論をする必要があるのではないかと考える。</p> <p><b>牧野委員長</b> 変更案①で、団体の得点を資料として持ったうえで意見交換をすべきということによいか。</p> <p><b>奥井委員</b> 団体の集計結果があることが、よりよい意見交換会になるのかはわからないが、市役所では議論の場には基礎資料を用意することが多い。</p> <p><b>事務局</b> 変更①、変更②については、意見交換の材料を示して議論するのか、材料なしに議論するのかということ。これまでは審査終了後、採点票を回収し、意見交換会を行っていた。そのような中での意見交換会で審査委員の皆さんにとっては、このような採点でよかったのか等、悩まれることもあったのかと思う。採点を確定させる、採点票を回収する前に意見交換をすることは、各審査委員の意見を参考に協議し、採点を見直す、自信をもって採点を確定させることができるのではないかと考え、提案させていただいた。</p> <p><b>赤澤委員</b> 仮採点結果の公表は、ボーダーライン上の団体をどうするかという意味の公表ではなく、あくまでも意見交換の材料として集計結果を参考にするというニュアンスだったことを理解した。</p> <p>……………質疑終結……………</p> <p>市民参加型補助金の二次審査における検討事項(追加提案)について、委員の挙手(変更案①7名、変更案②1名)により、変更案①に決定</p> <p>(2)平成31年度市市民参加型補助金について事務局からの説明を了承。</p>
--	---

		.....閉 会.....
6	問合せ先	所管課名:協働政策課 電話番号:047(407)3185

### 第3回習志野市市民協働推進委員会議事録

1 開催日時 平成31年2月6日(水)午後1時30分～午後3時30分

2 開催場所 習志野市庁舎5階 5-2会議室

3 出席者

【委員長】 牧野 昌子

【委員】 栢 まゆみ

赤澤 智津子

松井 秀明

野手 利浩

三橋 亜友美

子育て支援課 課長 相澤 慶一

生涯学習部 副参事 社会教育課長 奥井 良和

【事務局】 協働経済部 部長 竹田 佳司

次長 片岡 利江

協働政策課 課長 佐久間 心之

係長 柴野 夕子

副主査 佐々木 康太

4 議題

(1) 平成30年度市民活動団体支援等の施策について(報告)

(2) 平成30年度市民協働の取り組み状況について(報告)

(3) 習志野市市民協働基本方針の見直しについて

(4) 平成31年度習志野市市民参加課型補助金の審査について

(5) 平成31年度習志野市市民協働型委託事業について

5 会議資料 第3回習志野市市民協働推進委員会に関する資料

※別添資料

資料1 平成30年度市民活動団体支援等の施策について(報告)

資料2、参考資料1

平成30年度市民協働の取り組み状況について(報告)

資料3 習志野市市民協働基本方針の見直しについて

資料4-1、資料4-2、資料4-3、資料4-4、参考資料2

平成31年度習志野市市民参加型補助金の審査について

資料5 平成31年度習志野市市民協働型委託事業について(報告)

## 6 議事内容

### (1) 平成30年度市民活動団体支援等の施策について(報告)

質疑無し

### (2) 平成30年度市民協働の取り組み状況について(報告)

【牧野委員長】 参考資料1 4ページの子育て応援ステーションのステッカーは現在、市内何カ所に貼付しているのか。

【相澤委員】 現在、16件の協力をいただいている。ステーションの大半を占めているのは薬局である。

【牧野委員長】 今後、ステーションを増やしていく計画はあるのか。

【相澤委員】 募集は随時しており、今年度も新たに1件の申し出があった。

【牧野委員長】 県内にもいくつか自治会を小学校区でまとめた「まちづくり協議会」のようなものはあるが、まちづくり会議というかたちは習志野市の特色であり、独自の施策である。

参考資料1 5ページのまちづくり会議に対する予算措置はどのくらいか。

【協働政策課長 佐久間】 16のまちづくり会議に対して、年額45,000円の補助金を支出している。支出内容としては、会議開催時の飲料、資料作成用の消耗品費に充てているとのことである。まちづくり会議と連合町会の会議を併せて開催する場合は、それぞれの補助金を合わせて使用する場合もある。

### (3) 習志野市市民協働基本方針の見直しについて

【三橋委員】 市民協働基本方針は市民に向けて市民協働を理解してもらうために掲げているものであるならば、市民にわかりやすい文章だけではなく、図を用いた方がよいのではないか。

「協働」「市民協働」を理解していない方も多いのではないか。4頁の市民協働のイメージ図はわかりにくい。例えば明石市は「共同」「協同」「協働」の違い、立場・目的等が記載されている。「共同」は立場が同じで、目的が同じものを言い、「協同」は、立場は異なるが活動や目的が同じ、「協働」は立場・活動は異なるが目的は同じと記載されている。非常にわかりやすいと思う。図の中央に目的があり、この目的に対し、住民・自治会・行政・企業が関わるといった図で、このようなものが記載されているとわかりやすく、これが「協働」だと理解できる。「市民協働」というのはどのようなものか、市民とどのようにやっていくのか、流れがわかる基本方針がよいのではないか。

3頁の用語の定義にあるように「市内に通勤・通学する者」も「市民」に入る。「企業・学校等」も関わることはないか。図では「市民」と「企業・学校等」が横に並び「市民」から飛び出ていることに違和感がある。宮城県岩沼市では「行政活動」と「市民活動」が相互に協働しているものが2つの円だけで示され「市民協働」としている。「市民活動」の中に、町内会・企業・学校が含まれている。非常にシンプルで「行政活動」と「市民活動」が一緒に取り組むことが「市民協働」だということがわかりやすい。このような記載があるとわかりやすいのではないかと思う。

【牧野委員長】 三橋委員にはいろいろ調べていただいた。習志野市では「市民協働」の関係性を重なり合う部分で表していたが、この意見に対していかがか。

【協働政策課長 佐久間】 本市では、どのように関わるか、イメージ図で表している。見直しに際しては、他県・他市を参考にした。基本方針策定から10年が経過したが、本市の

「市民協働」に対する考え方は変わらないことから、図についても大きな変更はしない方向ではある。見づらい点、わかりにくい点について、再検討させていただきたい。

【牧野委員長】「市民」の中に「地縁団体」が含まれていることはわかるが、習志野市はまちづくり会議が活発に行われていることから、図の中に「地縁団体」を記載した方がよいのではないかと。

習志野市の場合は「協働」だけではなく「市民協働」という文言にもポイントがあるかと思う。市と市民・企業・関係機関等とお互いの強み、資源を持ち寄り、課題解決に取り組むことが「協働」と理解されているが、それをどのようにわかりやすい言葉で表すか工夫が必要である。

【相澤委員】10頁から12頁の「7.推進体制及び環境の整備」の「主な取組」について、あまりにも簡単な記載ではないか。「市と市民活動団体等との連携促進」では具体的に何をやるのかがわからない。

「8.市民協働事業の評価」とあるが、今後、協働事業は必ず評価をするということなのか。評価後はどうなるのか、よくわからないので説明いただきたい。

【牧野委員長】「主な取組」はもう少し具体的に記載した方がよいのではないかとという意見に対して、いかがか。

【協働政策課長 佐久間】「主な取組」については、方針を示したものであり、大項目のように表したいことから、具現化については、今の段階では考えていない。評価については、必要に応じて行っていただく。

【相澤委員】理解した。

【栢副委員長】2頁の(1)基本方針策定の目的 背景について、協働の目的は、行政のみでは細かなサービスが困難なことから、市民活動団体とつながることで、質の高い、きめ細かなサービスを提供できることだと、読み取っている。協力する市民側のやりがいや達成感を掘り起こすことで、市民が幸せを感じ、地域への愛着が増す。そして、行政と市民活動団体がさらに協力・協調することで、よりよいサービスを提供できるのではないかと思う。たくさん儲ける、高級車に乗るといような右肩上がりの価値観ではなくなっており、皆が生きる価値や糧を探している。習志野市に住めば、課題解決に協力することができ力を発揮することができる、皆が生き生きと過ごしている、そのようなことを打ち出すことで、協働の魅力が見えてくるのではないかと。細かな行政サービスを提供するために市民活動の担い手が必要ということだけではなく、1行でも担い手の目的を記載することで、習志野市ならではの協働のよりよい形が見えてくるのではないかと。

【牧野委員長】目的のところ、経費削減という文言が出てこないだけでもよいのではないかと。個人的には、市民との協働により、経費が削減され、他の課題を解決するために予算が使えるようになるのであれば、経費削減と記載してもよいと思う。市民参画により、市民が市に愛着を持ち、やりがい、幸福感を感じることができれば協働の意味がある。誰かが損をするのではなく、誰かに言われて取り組むのではなく、対等の立場、win×winの関係が望ましい。目的に市民協働により市民にとってもメリットがあること、新しい価値をあることが記載されるとよいと思う。

【協働政策課長 佐久間】担い手となる方が満足感を得られること等について、改訂前も改定案にも記載されていない。策定当時の10年前は、他市もそうだが、このようにやっという方向性を示したものとなっている。本市も市民活動団体等への支援、市民活動団体等と協働により、様々な取組を行ってきたが、あまり進んでいないのではないかと考える。市として取り組みが不十分なもの、取り組んでいないものもあるが、理想で終わってし

まうものではなく、現実的な方向性を示す基本方針とする、明らかに達成が難しいものを記載するのはいかがなものかという考え方で見直しを行った。策定当時とは異なり、市民活動も活発になってきている。栢委員からいただいた御意見は、預からせていただき、市民がどう満足できるかという部分をどのように記載するのか検討させていただければと思う。市民協働に取り組む方が満足感や達成感を得られる、きっかけとなる表現を検討させていただきたい。

【牧野委員長】先ほど8頁の図の中または他のところで「地縁団体」という文言は記載した方がよいのではないかと申し上げたが、3頁「用語の定義」の「市民活動団体」として記載があったのでお伝えする。

#### (4) 平成31年度習志野市市民参加課型補助金の審査について

【牧野委員長】要項については、よろしいか。3月16日(土曜日)に二次審査となる公開プレゼンテーションが予定されているので、委員の皆様におかれましては御承知おきください。

次に、二次審査の方法、仮採点の公表部分については前回、委員会として意見をまとめきれていなかったもので、意見交換の後、決めたいと思う。

【松井委員】仮採点の採点票は資料4-3と同じもので行うのか。仮採点の結果と併せて評価コメントも公表されるのか確認したい。

【協働政策課係長 柴野】採点票については、同じものを最後まで使用していただく。仮採点、意見交換の後、見直しがあれば、仮採点で使用した採点票を修正していただくこととなる。評価コメントについては、前回の委員会で御意見もなかったことから、公表する予定はない。仮採点したものを手元に置き、意見交換を参考にし、御自身の採点を見直すという流れである。前回は参考とするために採点結果のどの部分を公表するのか、案をお示したうえで委員会としての御意見を伺うまでに至っていなかったことから、前回の委員会の御意見を参考に、今回案①と案②をお示した。

【野手委員】毎回、自分の採点により不採択となる団体があったらという不安を感じながら採点している。審査後に意見交換会で、他の委員の皆さんの意見を伺うと、気が付かなかったことや思い込みで採点していたことが明確になり、重要な場であることを認識した。意見交換会では委員の皆さん全員の採点や思いを伺いたい。案①も②もそれぞれメリット・デメリットがあると思う。決には従うが、私としては案①を推したい。

「かだい提案型テーマ」にもある「オリンピック」については、商工会議所においてもオリンピックを盛り上げようと商工団体と検討し、組織委員会に問い合わせをしたところ、いろいろと規制があり、オリンピックを想起させる「2020」等、使用してはいけないものが非常に多かった。そのため、審査の段階で苦労するのではないかと。組織委員会に確認し、整合性をとった方がよいと思う。

【赤澤委員】案①については、意見を伺う中でどなたの採点結果なのか予想できてしまうかもしれないが、それが無いとするのであれば、案①も②も大きな違いはないように思う。採点結果の公表部分についてはではないが、身近な団体が「わかもの活力型」の交付決定をされたが、事業費は、誰かが立て替えるのか、先に交付されるのか伺いたい。

【協働政策課 係長 柴野】事業実施前に概算払いが可能である。

【赤澤委員】10万円の補助金交付にすれば事務手続きが煩雑で負担が大きいようである。事務手続きの軽減、省力化されるよう改善を検討いただけると補助金活用しやすいのではないかと。案についてはどちらでもよい。



【牧野委員長】 推進委員会はそれぞれの立場の方から御意見を伺う場であることから、立場により、公益性・先駆性等、見る角度が異なれば採点結果も変わってくるのは当たり前のことである。それぞれ違った立場から出発して、皆さんが概ね納得するような結果となるメンバーではないか。いろいろな立場の考えがわかる方が採点しやすいのではないか。採点結果を非難するようなことはなく、各委員の考えが尊重されるメンバーであると思う。異なる意見を聞いたうえで採点することが大事なのではないかと考える。

【三橋委員】 例にあがったものはわかりやすい結果であるが、案①は平均点が出ていないことから、微妙なラインは計算しなければわかりにくい、採択のボーダーラインが見えづらいつらということではよろしいか。

【協働政策課 係長 柴野】 そのように考える。

【牧野委員長】 採択基準は7点、採択を期待する場合は7点を目安に考えればよい。よい事業でも採点が5点であれば基準点を下回り、不採択の場合もある。最高得点と最低得点を除き、平均点を出すことになるので、一人ひとりの採点が重要となる。案①は4人、案②は3人という結果である。委員長はどうすればよいのか。

【協働政策課長 佐久間】 同数の場合、委員長決議となる。

【牧野委員長】 それでは、案①4名、変更案②3名により、仮採点の公表部分は案①のとおり、各審査委員の氏名は公表せず、A委員・B委員とし、100点満点評価で公共性・発展性等の各項目の得点と合計得点を公表する。

#### (5) 平成31年度習志野市市民協働型委託事業について

【牧野委員長】 5事業とも担当課からあがってきたことは、とても喜ばしいことだと思う。全て採用していただきたい。

【協働政策課長 佐久間】 市民協働型委託事業に向いている課題、市民参加型補助金「かだい提案型」に向いている課題があったことから、委託事業として取り上げていない事業については、担当課とのヒアリングを行い、次年度以降の事業実施につなげていきたいと考えている。

【牧野委員長】 他市町村では庁内の協働、課題提出は難しいと言われている。習志野市では、課題解決に向けて、市民協働に対する期待が非常に高いということだと思う。

【松井委員】 「月明りヨガ」定員100人というのは、どのような方を対象としているのか。

【協働政策課 副主査 佐々木】 厚生労働省主催の神宮球場で1,000人規模の月明りヨガがメディアで取り上げられたことから本市においてもシティセールスの観点から開催を検討したものである。仕事帰りの方を対象としている。

【牧野委員長】 月明りヨガは予算がなくても実施可能ではないか。話題性もある。提案をいただいたテーマであるから、何かしらで生かしていただけたらと思う。